

## 看護学部・看護部共催企画

### 実習に向けての連携強化研修「語ろう！私たちにできること」開催報告

未来を担う看護学生を育てるために看護学部と附属病院看護部はどのように連携していくことができるのかについて一緒に考えるために、2021年8月3日（火）に8号館N301教室において、実習に向けての連携強化研修「語ろう！私たちにできること」を開催いたしました。

研修には看護学部の教員と附属病院看護部の看護師長や実習指導者など70人が参加しました。全体会では本研修の趣旨について看護教育企画小委員会の大川貴子委員長から説明しました。それを踏まえ、大学と附属病院のビジョンを共有するため、坂本祐子学部長から「大学教育を通して育てたい学生像」について、渡邊美恵子看護部長から「臨床側が望む卒業時の学生像」を話していただきました。大学教育では「学び方や考え方を学ぶこと」を大切にしていること、教員は看護学部のVISION18に掲げている「6つのPolicy」を大事に学生と向き合っていることが伝えられました。看護部としては卒業時に「看護専門職者としての基盤の習得」や「社会人になるための基礎力の習得」を求めていることなどをお話いただきました。このように看護学部・看護部共に看護学生が看護職として成長できる力を習得できるという目標を目指していることが共有されました。



後半は教員、看護師長、実習指導者らが混合するグループをつくり、実習の中で大事にしていることや、看護学部・看護部の目指すところに向かって、自分たちの立場だったら何ができるのかについてディスカッションをしました。

参加した皆様からは、「なごやかな雰囲気でした」「互いのビジョンやいろいろな人の考えを知れてよかった」「実習中も今回のように教員・指導者と話をすることが大切だと感じた」などの声をいただきました。

今後学生にとってより良い実習を提供するためには、看護学部・看護部が相互理解をすることが大切であり、お互いに「語ること」「耳を傾けること」が重要だと感じることがで

きました。今回のこの研修をスタートとし、今後も看護学部・看護部が語り合える関係を目指していきたいと思える時間となりました。

